

# 「キツネ岩」の調査

— 宅地造成工事に伴う確認調査 —



1991年4月

太子町教育委員会

# 例 言

1. 本書は、兵庫県揖保郡太子町東保神田253番地に所在する「キツネ岩」の調査概要報告書である。
2. 調査は、土田忠良氏所有の水田の宅地造成にともない、平成3年4月8日から4月10日に発掘調査を実施したものである。
3. 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次・田村三千夫・海野 浩幸が担当した。
4. 本調査・整理作業にあたっては、以下の協力を得た。  
太子町シルバー人材センター、調査補助員として小山真紀・首藤聖・藤井昭子氏の協力を得た。
5. 遺物の実測は、小山が行ない、トレースは首藤が行なった。
6. 本書の執筆・編集は、田村・海野が担当した。

## 目 次

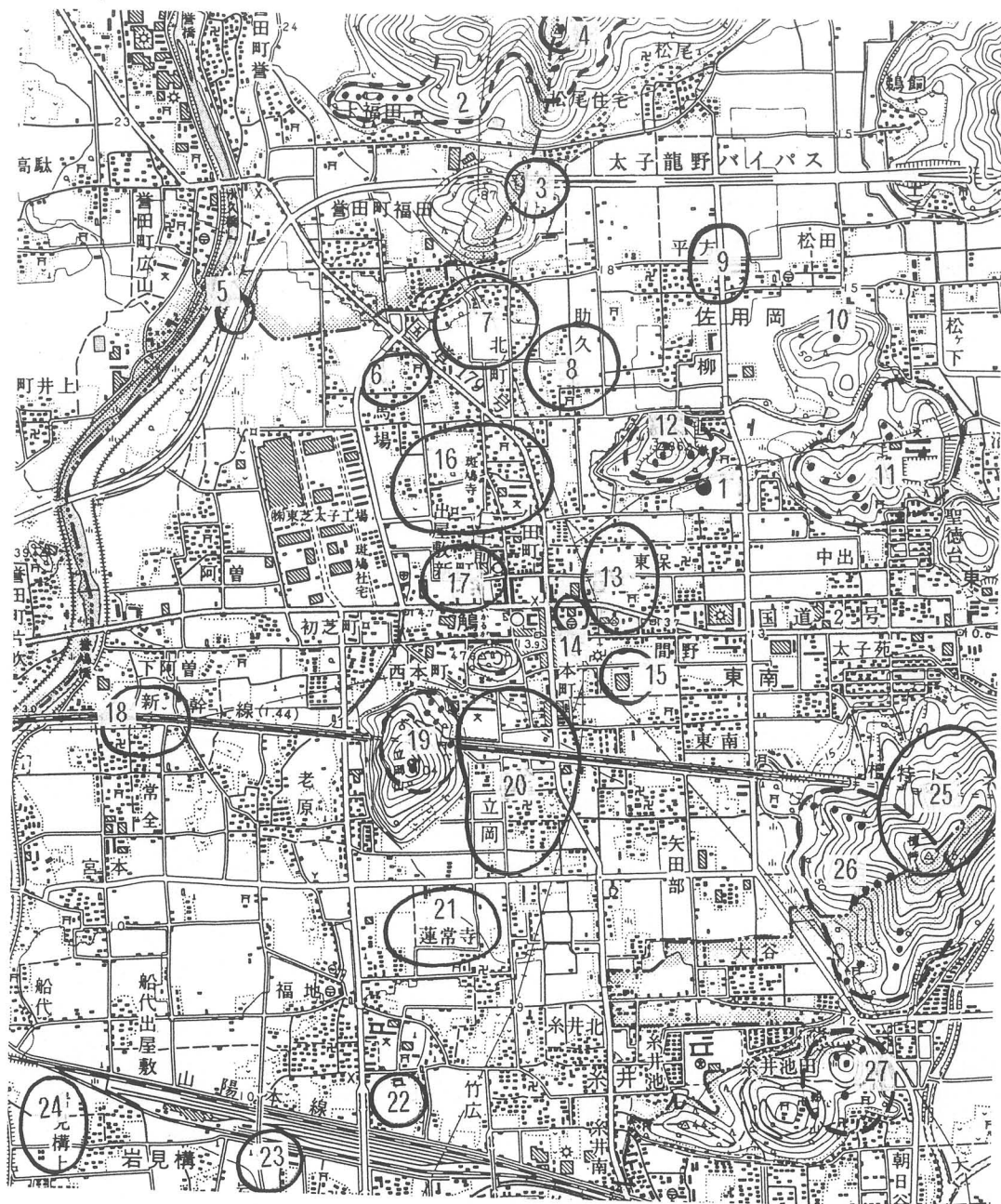
1. 調査に至る経過	2
2. 調査の概要	2
3. 遺物観察表	8
4. まとめ	9
5. 埋蔵文化財発掘調査概要	10

## 挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図	1
第2図 調査地区平面図	3
第3図 土層図	5
第4図 「キツネ岩」実測図	9
第5図 出土遺物実測図 1	6
第6図 出土遺物実測図 2	7

## 写真目次

写真1 作業風景	11
写真2 作業風景	11
写真3 調査地区(南より)	12
写真4 調査地区(東より)	12
写真5 「キツネ岩」(北東より)	13
写真6 「キツネ岩」(南東より)	13
写真7 南北トレンチ南端部土層	14
写真8 南北トレンチ「キツネ岩」北側土層	14



第1図 周辺遺跡分布図 (1/25000)

- |           |             |            |           |
|-----------|-------------|------------|-----------|
| 1 東保・キツネ岩 | 2 笹山墳墓群     | 3 坊主山遺跡    | 4 笹山経塚群   |
| 5 春日社址    | 6 馬場遺跡      | 7 城山遺跡     | 8 枝重・助久遺跡 |
| 9 平方遺跡    | 10 松田山古墳    | 11 丹生山古墳群  | 12 東保山古墳群 |
| 13 鶴遺跡    | 14 鶴・石田遺跡   | 15 東南遺跡    | 16 斑鳩寺遺跡  |
| 17 斑鳩寺南遺跡 | 18 常全遺跡     | 19 立岡山古墳群  | 20 立岡遺跡   |
| 21 蓮常寺北遺跡 | 22 福地・宮ノ前遺跡 | 23 福地・相坂遺跡 | 24 上構遺跡   |
| 25 檀特山遺跡  | 26 檀特山古墳群   | 27 朝日山古墳群  |           |

# 「キツネ岩」の調査

1. 遺跡の所在地 兵庫県揖保郡太子町東保神田253番地
2. 調査主体者 太子町教育委員会
3. 調査担当者 三村修次 田村三千夫 海野浩幸
4. 調査期間 平成3年4月8日～4月10日
5. 調査面積 18㎡
6. 座標 平面直角座標系VIを使用した

## 7. 調査に至る経過

「キツネ岩」は、聖徳太子が壇特山から指一本で投げたとの伝説があり、土田忠良氏所有の水田（標高12.20m）に所在し、地表上に約30cm程が露出している。今回この水田を宅地造成することになり、それに先立って「キツネ岩」の発掘調査を実施した。

この地区の周辺の通称小字名は、「梅ノ木」と呼ばれ、湿田である。

## 8. 調査の概要

調査は「キツネ岩」に直行する南北11m、東西8m、幅1m、のトレンチを設定して行なった。

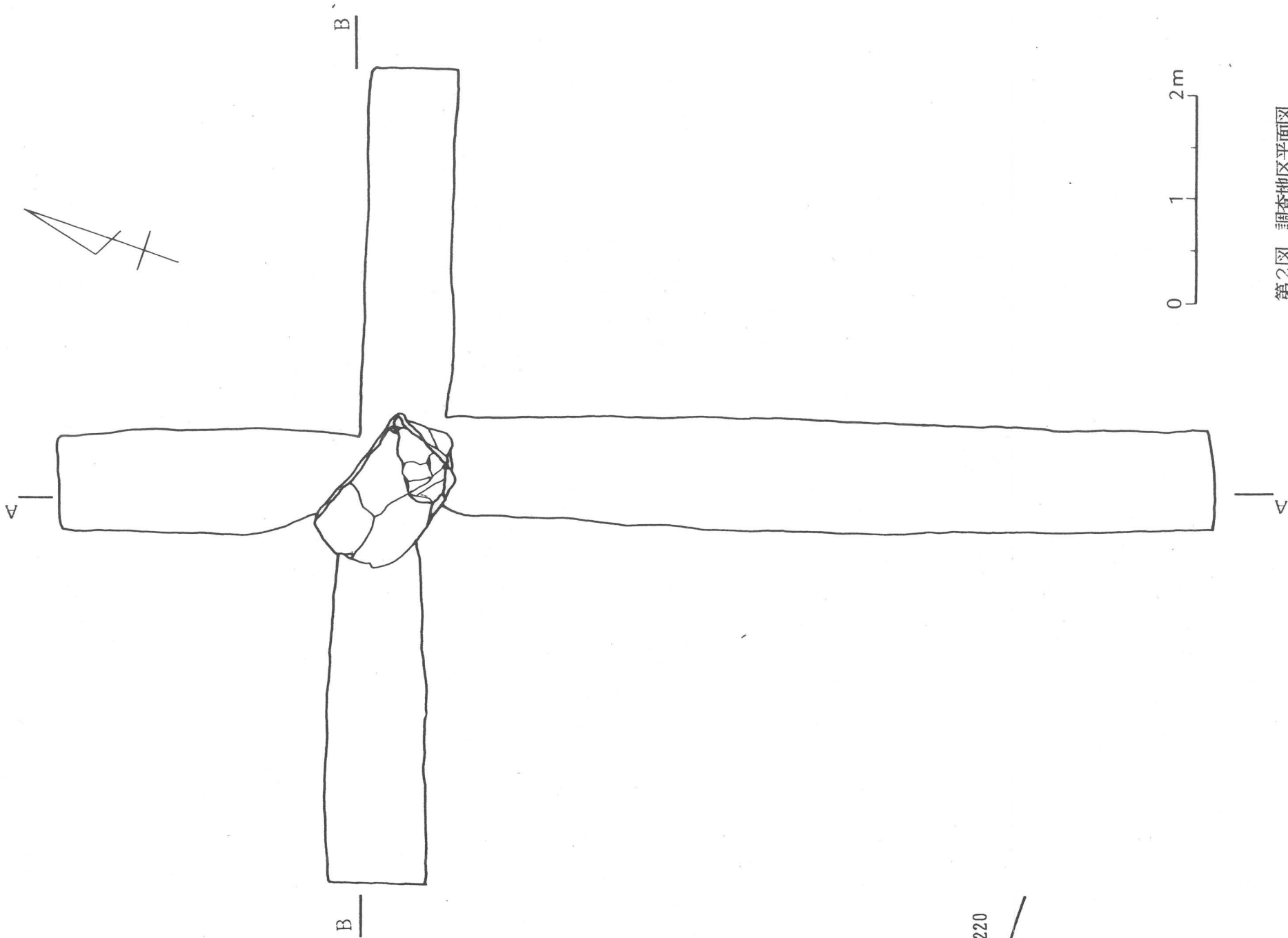
南北トレンチでは、第1層に現在の耕作土、第2層に灰黄色客土、第3層に厚さ20cm前後の明灰色土で「キツネ岩」の北側では細礫を含む、第4層に厚さ20cm前後の灰色粘質土で北側（山側）へ行くほど礫を多く含む様になり、「キツネ岩」の北約1.5mで終る。第5層は非常に締まった黄灰色地山岩崩土で、「キツネ岩」の南約1mで終り黒灰色粘質土が始まる。この土層は南へ行くほど厚く堆積していた。第6層は黄色土の地山である。

遺物は第3層と第4層より弥生時代から中・近世の石鏃、サヌカイト片、土器片等が出土した。第5層以下は、無遺物であった。

東西トレンチの土層は南北トレンチとほぼ同一の層序であるが、第3層の明灰色土は「キツネ岩」の東側で礫を含み、第4層の灰色粘質土は一部に暗灰色土を含んでいた。

Y = 23, 270

X = -129, 210



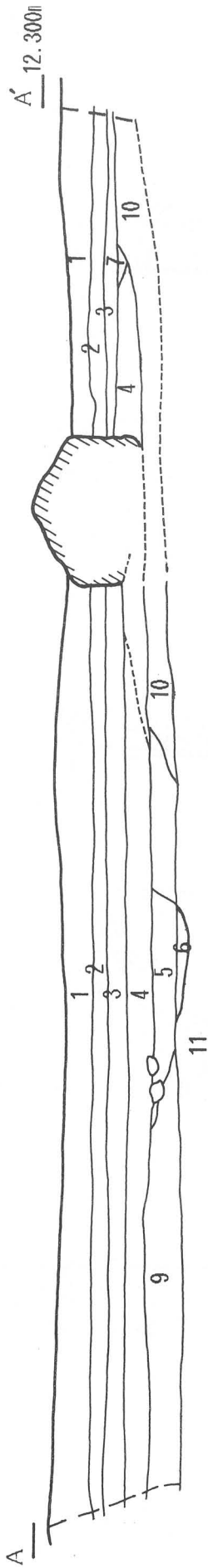
X = -129, 21

第2図 調査地区平面図

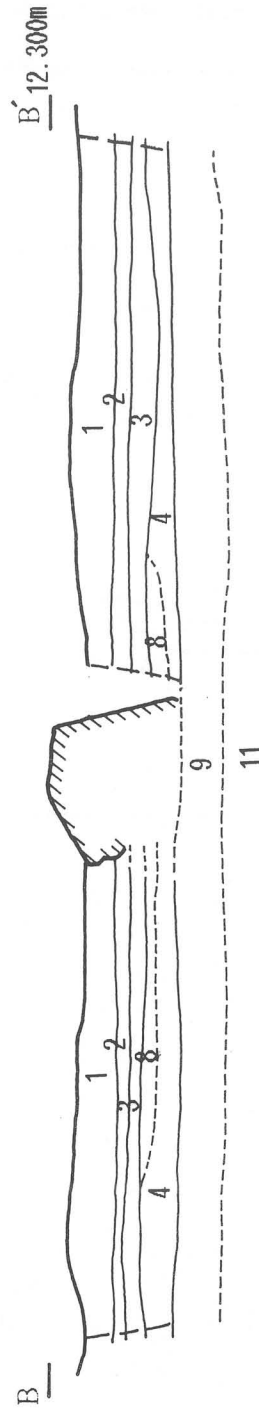
Y = 23, 270

X = -129, 22

X = -129, 220



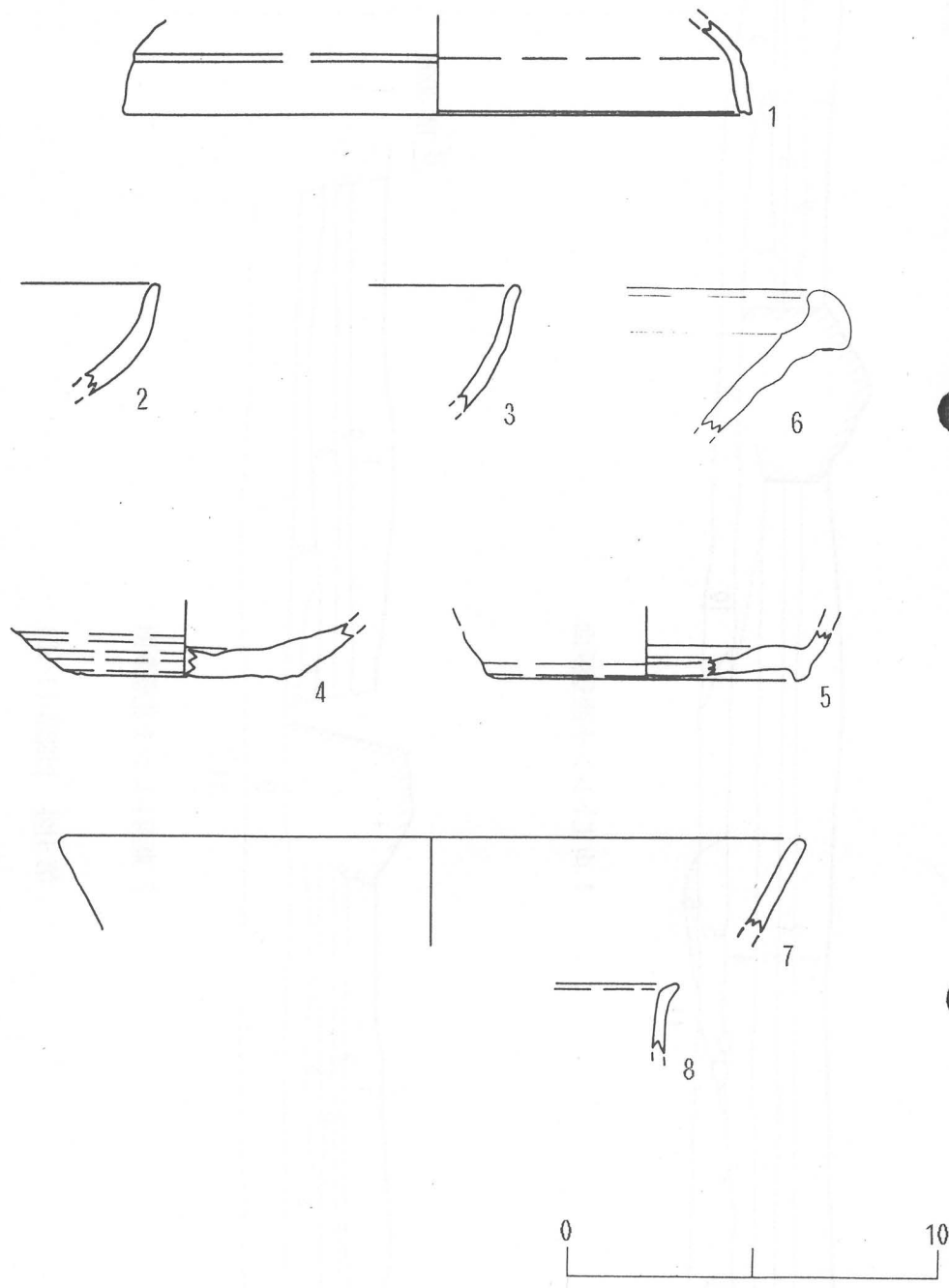
1. 南北トレンチ西壁断面



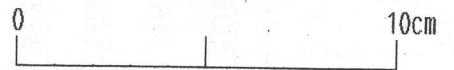
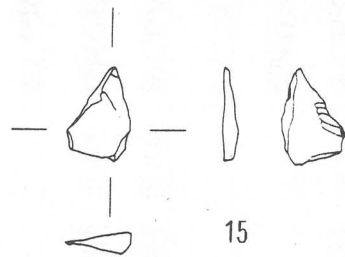
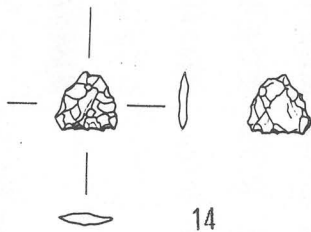
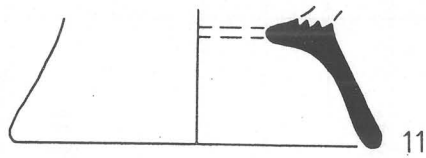
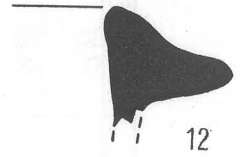
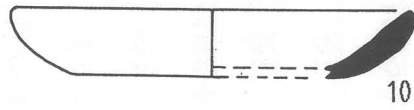
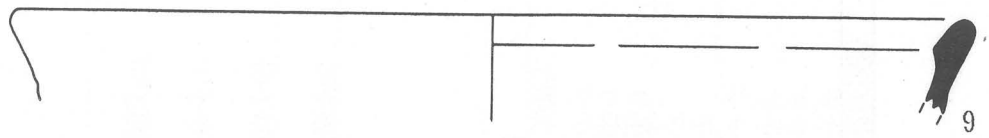
2. 東西トレンチ北壁断面

第3図 土層図 (1/50)

- |                         |                              |                       |
|-------------------------|------------------------------|-----------------------|
| 1. 耕土                   | 2. 灰黄色客土                     | 3. 明灰色土 (北及び東側で細礫を含む) |
| 4. 灰色粘質土 (北側で礫を含む)      | 5. 灰色土 (無遺物)                 | 6. 灰色砂質土 (無遺物)        |
| 7. 黄色土 (鉄分集積)           | 8. 暗灰色土混じり灰色粘質土              |                       |
| 9. 黒灰色粘質土 (北側で礫を含む。無遺物) | 10. 黄灰色地山岩崩土 (非常に締まっている。無遺物) |                       |

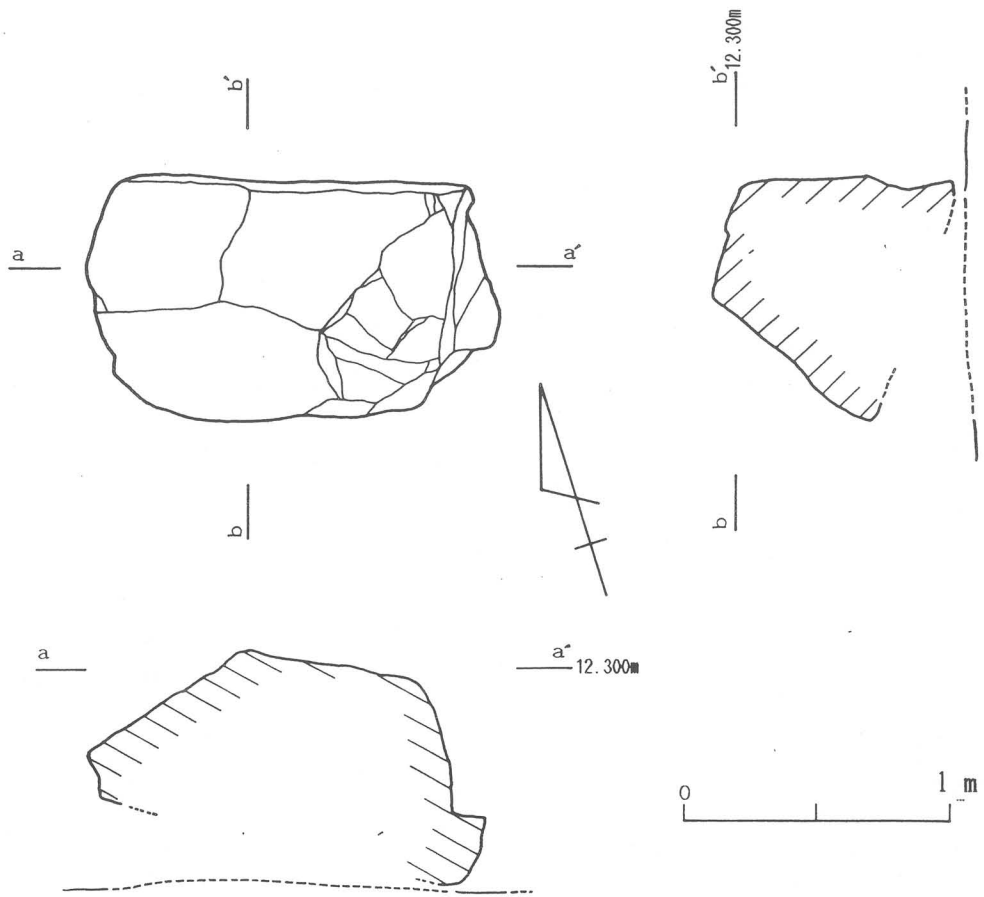


第5图 出土遺物実測図(1)



第6図 出上遺物実測図(2)





第4図 「キツネ岩」実測図

## 9. まとめ

今回の調査において「キツネ岩」は、第5層の黄灰色地山岩崩土、或るいは黒灰色粘質土の直上に存在するが、上層からの掘り方や、据え付け基盤等は検出されなかった。

又、南北トレンチの灰色粘質土層の直下で黒灰色粘質土層をきりこむ、灰色土及び、灰色砂層の堆積が認められたが、遺物は検出されず、人為的な遺構であるかわ不明である。

黄色土地山面にも遺構は検出されなかった。なお、「キツネ岩」は、1.56m×0.90m×0.80mの規模を計ることができた。

現在、保存問題については、所有者及び、地区の方々と協議を行ない現地番内に移築し「聖徳太子の伝承遺跡」として、保存することが考えられている。



写真1 作業風景



写真2 作業風景



写真3 調査地区（南より）



写真4 調査地区（東より）



写真5 「キツネ岩」 (北東より)

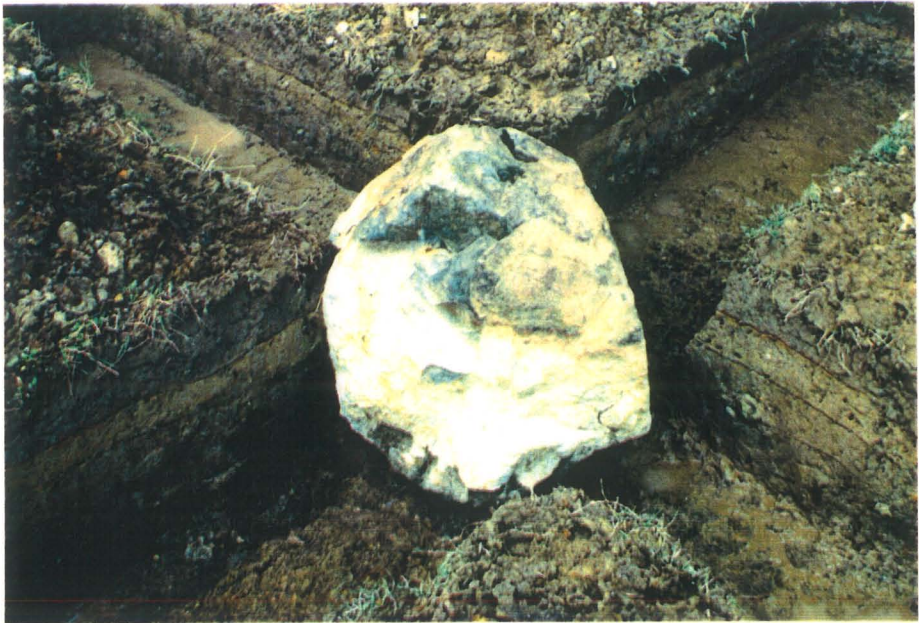


写真6 「キツネ岩」 (南東より)

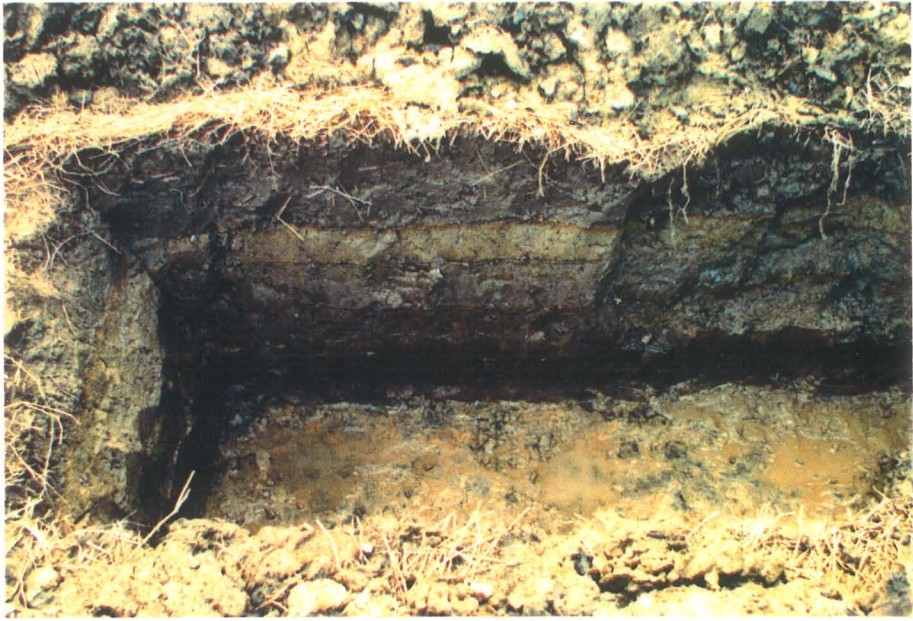


写真7 南北トレンチ南端部土層



写真8 南北トレンチ「キツネ岩」北側土層

# 埋蔵文化財発掘調査概要

太子町

遺跡の名称	「キツネ岩」	遺跡台帳 番号	
所在地	兵庫県揖保郡太子町東保神253番地		
調査の主体及び組織	太子町教育委員会	調査担当者	三村修次 田村三千夫 海野浩幸
原因者(工事主体)	土田忠良	工事の目的及び内容	宅地造成
発掘調査の期間	自 平成 3年 4月 8日 至 平成 3年 4月 10日	調査費及び負担者	土田忠良
発掘通知年月日	平成 3年 4月 7日 太教 第163号	発掘通知者	土田忠良
遺物発見届年月日及び氏名		発掘通知(文化庁より)	
遺跡取扱いの結果	保存 一部保存 破壊	報告書の有無	報告書 概報 なし

調査概要 立地・外形・遺構の状況・遺物の内容及び数量等を記入し遺跡構えの図面・写真は必ず添付のこと。

**立地** 太子町の中央部、東保前山(86.77m)の南、標高12.20mの水田に位置し、上部約30cmが露出している。  
「キツネ岩」の所在する水田は湿田で、通称「梅ノ木」の小字名で呼ばれている。

**外形** 全長1.56m、幅0.90m、高さ0.80m を測ることができた。

**遺物** 表土下10~50cmの間に位置する明灰色土と灰色粘質土の2層より、弥生時代から中・近世の土器片等が出土した。

**まとめ** 「キツネ岩」に関する掘り方・据え付け痕跡及び、他の遺構は検出されなかった。  
なお、「キツネ岩」は地山面の土層20cmのところ存在していた。



調査地区写真  
(東より)

